

クラブユース選手権大会北海道予選 決勝

2015年7月12日

会場：札幌サッカーアミューズメントパーク

【報告者】 HFAテクニカルスタディグループ

優勝：コンサドーレ札幌U-15

準優勝：アンフィニMAKI.FC

世界基準を見据えた北海道サッカーの質の向上

北海道クラブユース連盟に加盟する51チームがこの大会に臨んだ。今回は、8日間にわたる戦いのうち決勝での闘いのゲーム分析を通して、北海道の個の育成への展望と今後の課題克服について考察した。

1. 大会の概要

北海道クラブユース連盟に加盟する51チームがトーナメントを闘う。試合時間は80分(40分ハーフ)。1日1試合で4週間かけて行う。

今大会で優勝および準優勝したチームは全国大会へ、準決勝敗退2チーム及び準々決勝敗退4チームの内2チーム(代表決定戦勝者チーム)は、東日本インターシティーカップへ出場する。

2. ゲームの傾向

(1)分析データ

ボールポジションの回数(4本以上連続してパスが通った回数)について、1試合を通した両チームの合計は48回(前半29、後半19)で、昨年よりも15回多い。回数の多いチームは38回で、昨年よりも20回多く、目標の目安としている数値に近



い。

ミスパスの軌跡を解析すると、攻撃に偏りがあることがわかる。たとえば、Aチームの前半は、右サイドでは自陣で失うことが少なく、バイタルエリアを攻略しようと試みていたり、クロスを試みようとしていることがわかる。一方、左サイドでは自陣で失うことが多く、中盤まで運べたときは短いパスが奪われていることがわかる。後半になると一変し、左サイドからも多彩な攻撃をしかけていることがわかる。Bチームは、ハーフウェイラインをまたいだミドルパス(30m前後)を奪われる回数が多かった。

スローインの成功回数は両チーム合計20回で、失敗は18回だった。成功率50%以上を達成できた。

(2)ゲーム内容

両チームに共通していえることは、サッカー理解をしている選手が多いということである。それがゲーム内容にも表れていた。たとえば、コンサドーレ札幌は、しっかりとしたビルドアップをおこない、サイドを変えながらバイタルを攻略しようとする多彩な攻撃が見られた。ポリバレンタな選手が多く交代選手も複数のポジションをこなすことが出来

ていた。アンフ

ィニ MAKI

は、カウンタ

ーを主体とし

た攻撃のチーム

戦術理解度が高か

った。バイタルの攻略で

は巧みなコンビネーションでシュ

ートまで持ち込むことが出来てい

た。

ただ、5対4という結果を鑑みると、守備の面では課題が残る。また、北海道の選手が全国で活躍するためには、攻撃面においてもさらなる向上を目指すべきと考える。

FOR
YOUR
DREAM

REGULATION

スケジュール

6/20・21:1回戦 6/27:2回戦

6/28:3回戦 7/4:4回戦

7/5:準々決勝 7/11:準決勝

7/12:決勝

試合時間：80分(40-10-40)





3. 今後の課題

(1)カウンターに対する守備 (リスクマネジメント)

ビルドアップからバイタルの崩しに至る過程で多くの選手が関わり多彩な攻撃が随所に見られたが、攻撃中の守備の意識が薄い場面が見られた。リスクを冒して攻撃することも大切だが、チームとしてのリスクマネジメントをどの様に行うのかを選手達が常に考えることが出来れば、更に攻守にわたるレベルの高い試合になったであろう。

(2)チームとしての守備の戦術

1対1でやられてもチームとしてボールを奪い失点をしない守備をどの様に行っていくのか(グループとしての守備)が曖昧な場面があった。局面の1対1の対応の失敗が失点にまで直結していたため、追い込む方向やカバーリングの選手のポジショニングなどの精度が求められる。

(3)ビルドアップ

カウンターで得点を狙う攻撃は両チームとも迫力があつた。しかし試合の状況によりビルドアップから攻撃を組み立てることも必要な場面があったように感じる。

点差や時間帯・相手チームの状況によって攻撃のバリエーションを増やすことも必要であり、選手達がゲーム

の中で判断できることが理想である。

(4)フィニッシュの精度

守備の甘さも目立ったが、得点が多く入った試合となった。しかしプレッシャーのない中でのシュートミスも多く、決定力の向上はこの年代やチームの問題だけではなく、北海道全体の課題となっている。日頃から我々指導者は得点を取ることにこだわりを強く持つことが重要であるように感じる。

(5)プレッシャーの中での判断力

前線からの守備に対してどの様に攻撃を組み立てるのか、ボールを失わないだけではなくゴールへ近づき得点を取るために何をすべきかの判断が出来ていない選手が多く見られた(判断の伴わないロングボールなど)。味方の選手だけを意識するのではなく、相手の変化を常に見て、自分が今どの様なプレーを選択するべきかの判断が出来る選手が望まれる。

4. GK

(1)シュートストップ

シュートを受ける準備としてポジショニングを可能な限り前に取り、シュートコースを狭めようとする意図がみられ、正面でのキャッチやディフレクトができるなどゴールを守ることができた場面がいくつかあった。

左右のポジショニングがニアに寄りすぎている場面がいくつかみられたので、意図的に適確なポジションをとるために動かないもの(ゴールポスト、ペナルティスポット、ゴールエリアライン、ペナルティエリアライン)を基準にゴールの中心とボールを結んだ線上を意識し、頭上を越されない程度に前に出てシュートに対応することで、ゴールをより確実に守ることができると感じた。

主催者コメント

北海道クラブユースサッカー連盟 常任理事：小林徹也

実力のあるチームが決勝に残った。この年代のトップクラスの選手達のプレーが見られた。

初の札幌会場での決勝となったが、ピッチの状態も良く、レベルの高い試合になったことを喜ばしく思う。全国大会でも活躍してほしい。

「コンセプトと状況判断」

アンフィニMAKI.FC 渡邊大輔

(試合後)

“縦へ速く”のコンセプトは徹底できた。またカウンターの迫力もあり得点することが出来たが、奪ったボールがすぐに奪い返される場面があり、ボールの置き所や周りを見ているかどうかという状況判断に課題が残る。

守備についてはセンターバックを中心とする守備で、スペースの意識が不足している場面が目立った。

「相手を見ながらプレーを選択」

コンサドーレ札幌U-15 佐藤 尽

(試合前)

相手はどこで何をやるかということではなく、自分たちが今までやってきたことがこの決勝戦という場でどれだけ出来るかをチャレンジしたい。

(試合後)

失点が多いことの問題点を考えなければならない。カウンターについてはある程度予測していたものの、相手の動き出しに対する対応のまずさが目立ってしまったこととラインコントロールが適切ではないため失点につながった。1stディフェンダーの質・マークの確認・複数での守備と改善しなければならないことがある。

攻撃はサイドから攻めることによって相手を崩すことを心がけたがある程度は出来た。相手を見ながらプレーを選択していくことがより必要である。

QUALITY
&
INTENSITY

(2)ブレイクアウェイ

ブレイクアウェイでは積極的に前にポジションをとり、DFラインの背後をパスやドリブルで突破された際に素早い判断で飛び出し、相手からボールを奪う場面がいくつかみられた。

課題としては常に高い位置にポジションをとっていたことにより、頭上を越すシュートやサイドに展開されたあとのクロスに対応しきれない場面も多くみられたので、DFの背後をみたボール保持者とそこへ動き出そうする相手FWをGKが把握した時にポジショニングを高い位置にとるなど、相手やボール、DFラインの状況に応じて細かく修正することが必要だと感じた。

(3)クロス

フリーキックやコーナーキックのハイボールに対して出ようと素早く決断がされ、かつゴールから遠い位置への飛び出しもみられ、インターセプトをする意識が高いプレーがあった。

流れの中でサイドに展開された際に、ボールサイドに寄り過ぎたポジ



ショニング（ニアポスト寄り）になってしまい、ファーサイドへのボールに対応できない場面がいくつかみられた。

ゴール前の守備範囲をより広くするためにもクロスがあがる前に相手と味方の状況を把握できるポジショニングと身体の向きをとり、上がってきたクロスに対しては「味方にプレーさせるのか、自分でプレーするのか」を素早く味方に伝えることが必要である。

(4)ディストリビューション (GKからの配球)

昨年と比較して試合全体を通してロングボールを多用する傾向があった。両チームともある程度、飛距離のあるロングボールを蹴れていたのが手数をかけずに相手ゴールに迫る手段としては有効な場面がいくつかあった。

キャッチやインターセプトで奪ったあとの配球で失ってしまう回数が多かったため、キックやスローの技術を向上させるとともに、味方と相手の状況をみてより効果的な配球を選択できるようにする必要がある。



5. まとめ

いずれのチームも個の育成に対してねらいをもって取り組んでいることが伺えた。今後の課題はそれら個をさらに大きなものにしていくと同時に、刻々と変化する状況に応じて、個人戦術と関わりの質をより向上させることである。

今年度から、北海道としての一貫指導の実現を目指して、強化育成コンセプトをもとにして各方面からアプローチしている。HFA×TSGとしては、大会分析とその共有を通してその実現に貢献していきたい。

最後に、このTSGレポート作成にあたりまして協力いただきました大会及びチーム関係者の方々に感謝申し上げます。お礼のことばといたします。

PLAYERS
FIRST

TSGメンバー

- ・ 小林 俊也
(チーフ・恵庭南高校)
- ・ 仲 孝平
(GK・文教大明清高・サンク栗山)
- ・ 桜庭 慎二郎
(データ解析・岩見沢明成中学校)
- ・ 大年 貴之
(データ解析・ヘアフット北海道)

- ・ 神田 法人
(データ解析・道央ブロックトレセン)
- ・ 宮崎 貴宣
(ゲーム解析・倶知安中学校)

ベスト16チーム

- ・ SSSジュニアユース (札幌)
- ・ R.シュベルブ釧路 (道東・釧路)
- ・ 帯北アンビシャス (道東・十勝)
- ・ DOHTO Jrユース (道央・千歳)
- ・ クラブフィールズ (札幌)

- ・ FC DENOVA (札幌)
- ・ フロンティアトルナーレ(道南・函館)
- ・ コンサドーレ旭川 (道北)
- ・ アンフィニMAKI (札幌)
- ・ アプリール札幌 (札幌)
- ・ 札幌ジュニアFCユース (札幌)
- ・ スプレッドイーグルFC函館 (道南)
- ・ プロGRESS十勝FC (道東)
- ・ General Muroran (道南・室蘭)
- ・ ASC (道南・苫小牧)
- ・ コンサドーレ札幌 (札幌)